



『延喜式』にはヒジキは載らず

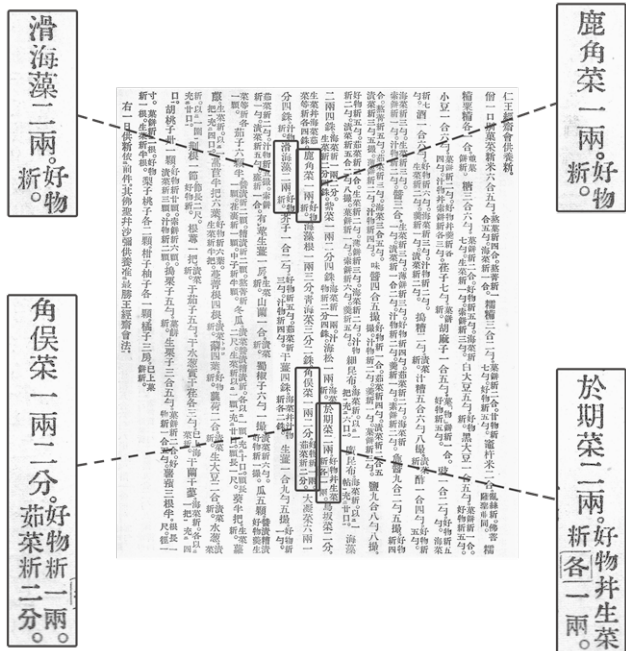
仲田 崇志

宮下 (1974) や新崎・新崎 (1978, p. 77), また様々なウェブサイトに、ヒジキの記述が『延喜式』(927 成立) に載ると書かれている。しかしいずれも『延喜式』のどこに記述があるのか示しておらず、確認が難しい。

引用元らしい宮下 (1974) の「第二章 古代人の海藻」から『延喜式』に関わるヒジキの記述を抜き出すと、(A)「鹿尾菜 (ヒズキモ・ヒジキモ) / (中略) 志摩国の名産なので伊勢神宮の神饌に選ばれ」(p. 70), (B)「表 5 十二種の法会における海藻使用頻度」の「ヒジキ 5」(p. 80), (C)「好物 / 使用する海藻 (アラメ・オゴノリ・ヒジキ・ツノマタ)」(pp. 85-86), がみつかる。

索引本と翻刻本 (皇典講究所・全国神職会 1929・1931, 1932) で該当箇所を探すと「鹿尾菜」などヒジキを指す語はなく、代わりに志摩国の貢納品 (A) (巻 24 主計式, 上) として、また法会の料 (B) や好物の料 (C) (巻 33 大膳式, 下) として「鹿角菜」(フノリ*) がみつかる*2 (図)。宮下 (1974) はどこかで「鹿角菜」と「鹿尾菜」を取り違えたようで、『延喜式』にヒジキは載らなかった*3。孫引きは避け、原典を確認することが大切である。

なおヒジキの初出は、「生鹿尾菜□十□」と書かれた平城宮跡出土の付札木簡 (710-790; 奈良国立文化財研究所 1987)*4 とみられる*5。



『延喜式』巻 33 大膳式 (下)「仁王経齋会供養料」の記述 (物集 1927, pp. 699-700)。好物料 (新) のうち海藻を拡大。宮下 (1974, pp. 85-86) が挙げた海藻 (アラメ・オゴノリ・ヒジキ・ツノマタ) と比べると、『延喜式』にはヒジキ (鹿尾菜) がなくフノリ (鹿角菜) がある (アラメは滑海藻, オゴノリは於期菜, ツノマタは角俣菜としてみつかる)。

*1 宮下 (1974, p. 65) も『延喜式』の「鹿角菜」をフノリとしている。

*2 同じ箇所は明治から 1974 年までの主な翻刻 (経済雑誌社 1900, 物集 1927, 正宗 1929, 皇典講究所ほか 1929・1931, 黒板・国史大系編修会 1965) でいずれも「鹿角菜」だった。

*3 国立国会図書館デジタルコレクションの国史大系本『延喜式』(doi.org/10.11501/991103) の全文検索でも「鹿尾菜」は出てこない。

*4 木簡庫 (doi.org/10.24484/mokkankou.6AADEB27000109) 参照。

*5 宮下 (1974, p. 50) は正倉院文書 (702-778) の海藻にも「鹿尾菜」を認めたが、関根 (1969) の索引や正倉院文書マルチ支援データベース (https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/w49/search) でみつからず、やはり誤りの可能性が高い。

引用文献

- 新崎盛敏・新崎輝子 1978. 海藻のはなし. 東海大学出版会, 東京.
- 経済雑誌社 (集) 1900. 国史大系 13. 延暦交替式・貞観交替式・延喜交替式・延喜式. 経済雑誌社, 東京.
- 皇典講究所・全国神職会・宮西惟助 (校訂) 1929・1931. 校訂 延喜式, 上・下. 大岡山書店, 東京.
- 皇典講究所・全国神職会・宮西惟助 (校訂) 1932. 校訂 延喜式, 索引. 大岡山書店, 東京.
- 黒板勝美・国史大系編修会 (編) 1965. 新訂増補 国史大系 26. 延暦交替式・貞観交替式・延喜交替式・弘仁式・延喜式. 吉川弘文館, 東京.
- 正宗敦夫 1929. 日本古典全集. 延喜式, 5. 日本古典全集刊行会, 東京.
- 宮下章 1974. ものと人間の文化史・海藻. 法政大学出版局, 東京.
- 物集高見 (編) 1927. 新注 皇学叢書 3. 延喜式. 広文庫刊行会, 東京.
- 奈良国立文化財研究所 1987. 平城宮発掘調査出土木簡概報 19. 奈良国立文化財研究所.
- 関根真隆 1969. 奈良朝食生活の研究. 吉川弘文館, 東京.

(北海道大学大学院理学研究院)